

**広角ズームレンズ“RF14-35mm F4 L IS USM”を発売
焦点距離 14mm の超広角撮影とズーム全域での高画質を実現**

キヤノンは、「EOS R システム」の交換レンズ「RF レンズ」の新製品として、プロ・ハイアマチュアユーザー向けの広角ズームレンズ“RF14-35mm F4 L IS USM”を2021年9月下旬に発売します。



RF14-35mm F4 L IS USM

“RF14-35mm F4 L IS USM”は、焦点距離 14mm の超広角撮影を実現し、描写性能や操作性、堅牢（けんろう）性などで最高水準の性能を追求した「L (Luxury)」レンズです。「RF レンズ」のラインアップに、ズーム全域で開放 F 値 4 の高画質と携帯性を両立した広角ズームレンズを加えることで、広角・標準・望遠からなる「F4 L IS USM ズームレンズシリーズ」としてユーザーの多様なニーズに応えます。

■ 表現の幅を広げる焦点距離 14mm から 35mm の広角ズームレンズ

焦点距離 14mm の超広角撮影を実現しています。現行の EF レンズ^{※1}と比較して焦点距離が 2mm 広角化することで、より広がりのある映像表現や、遠近感を強調した撮影が可能です。14mm から 35mm の焦点距離をカバーすることで、風景や建築、スナップ、ポートレートなど多様な撮影シーンに対応します。

■ ズーム全域での高画質と小型・軽量を両立

「UD レンズ^{※2}」2 枚、「UD 非球面レンズ」1 枚、「ガラスモールド非球面レンズ」2 枚を含む 12 群 16 枚の光学設計により、画質劣化の原因となる諸収差を低減し、ズーム全域で中心部から周辺部までの高画質を実現しています。さらに、カメラ側の電子歪曲収差補正^{※3}を生かした小型・軽量設計により、全長約 99.8mm、質量約 540g の優れた携帯性を実現しています。

■ シャッタースピード換算で 7.0 段の手ブレ補正

「EOS R5」（2020 年 7 月発売）装着時は、ボディ内の手ブレ補正機構と協調制御することで、静止画撮影時に 7.0 段^{※4}の手ブレ補正効果を実現し、動画撮影時も高い手ブレ補正効果を発揮します。また、ボディ内手ブレ補正機構を搭載していない「EOS R」（2018 年 10 月発売）装着時も、レンズ内光学式手ブレ補正機構により 5.5 段^{※4}の手ブレ補正効果を実現しています。

製品名	希望小売価格	発売日
RF14-35mm F4 L IS USM	オープン価格	2021年9月下旬

※1 「EF16-35mm F4L IS USM」（2014 年 6 月発売）。

※2 「UD (Ultra low Dispersion=特殊低分散) ガラス」を用いたレンズ。

※3 画像処理で歪曲収差を補正すること。

※4 焦点距離 35mm 時。CIPA 規格に準拠。Yaw/Pitch 方向。

<主な特長>

1. 表現の幅を広げる焦点距離 14mm から 35mm の広角ズームレンズ

- ・焦点距離 14mm の超広角撮影を実現。現行の EF レンズ「EF16-35mm F4L IS USM」と比較して焦点距離が 2mm 広角化することで、より広がりのある映像表現や、遠近感を強調した撮影が可能。
- ・14mm から 35mm の焦点距離をカバーすることで、風景や建築、スナップ、ポートレートなど多様な撮影シーンに対応。



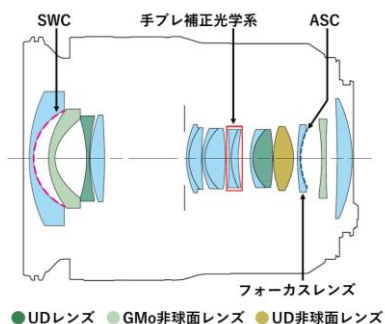
焦点距離 14mm の作例



焦点距離 14mm と 16mm の画角比較のイメージ

2. ズーム全域での高画質と小型・軽量を両立

- ・RF マウントの大口徑・ショートバックフォーカスがもたらす自由度の高いレンズ設計により、高画質化と小型・軽量化を両立。カメラ側の撮像面近くに大口徑レンズを配置できるため、焦点距離 14mm から 35mm のズーム全域での高画質を実現。
- ・「UD レンズ」2 枚、「UD 非球面レンズ」1 枚、「ガラスモールド非球面レンズ」2 枚を含む 12 群 16 枚の光学設計により、画質劣化の原因となる諸収差を低減し、焦点距離 14mm から 35mm のズーム全域で中心部から周辺部までの高画質を実現。
- ・特殊コーティング「SWC (Subwavelength Structure Coating)」と「ASC (Air Sphere Coating)」の 2 種類を採用。レンズ内の光の反射が撮影画像に入り込んでしまうフレアやゴーストなどの発生を低減。
- ・カメラ側の電子歪曲収差補正を生かした小型・軽量設計により、全長約 99.8mm、質量約 540g の優れた携帯性を実現。
- ・「EF16-35mm F4L IS USM」装着時の「EOS 6D Mark II」(2017 年 8 月発売) と比較して、「RF14-35mm F4 L IS USM」装着時の「EOS R6」(2020 年 8 月発売) は、焦点距離を広角化しながら、全長約 14% の短縮化と、質量約 12% の軽量化を達成。携行・撮影時の負担を軽減。



RF14-35mm F4 L IS USM
(14mm 時) 光学構成図



大きさや重量の比較

3. シャッタースピード換算で 7.0 段の手ブレ補正

- ・「EOS R5」装着時は、ボディ内手ブレ補正機構との協調制御により、静止画撮影時に 7.0 段の手ブレ補正効果を実現。動画撮影時も高い手ブレ補正効果を発揮。
- ・ボディ内手ブレ補正機構を搭載していない「EOS R」装着時も、レンズ内光学式手ブレ補正機構により 5.5 段の手ブレ補正効果を実現。動画撮影時は、カメラの電子式手ブレ補正機能と協調する「コンビネーション IS」により手ブレを低減。

4. 快適な近接撮影や動画撮影を実現

- ・RF マウントの特長の一つであるショートバックフォーカスを生かしたリアフォーカスレンズの配置により、最短撮影距離 0.20m、最大撮影倍率 0.38 倍の近接撮影を実現。料理や小物などの被写体により接近し、ボケ味を生かした撮影や、広角レンズならではの遠近感を強調した迫力のある撮影が可能。
- ・フォーカス位置により画角変化が生じてしまう「フォーカスブリージング」を低減し、「EF16-35mm F4L IS USM」と比較して画角変化の少ない安定した構図での撮影が可能。フォーカス後に構図調整をする手間が少なくなり、動画撮影などでの快適性が向上。
- ・超音波モーター「ナノ USM」により、静止画撮影時の高速 AF と動画撮影時の滑らかな AF が可能。フォーカスレンズ群の軽量化による AF 速度の高速化も実現し、より快適な撮影を実現。



「EF16-35mm F4L IS USM」(0.28m、0.23 倍)



「RF14-35mm F4 L IS USM」(0.20m、0.38 倍)

最短撮影距離と最大撮影倍率による見え方の違い

<主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。

<ご参考：F4 L IS USM ズームレンズシリーズ>

EF レンズにおける「F4L ズームレンズシリーズ」は、ズーム全域での開放 F 値 4 の高画質と携帯性を両立するシステムとして、プロ・ハイアマチュアを中心に幅広いユーザーに使用されてきました。

キヤノンは、新たに RF マウントの大口径・ショートバックフォーカスによる高画質化と小型・軽量化を実現し、「ナノ USM」や「コントロールリング」を搭載した「RF14-35mm F4 L IS USM」(2021 年 9 月発売予定)をラインアップに加えることで、「RF24-105mm F4 L IS USM」(2018 年 10 月発売)、「RF70-200mm F4 L IS USM」(2021 年 3 月発売)とともに広角・標準・望遠からなる RF レンズの「F4 L IS USM ズームレンズシリーズ」を構築し、ユーザーの多様なニーズに応え、撮影領域の拡大に貢献していきます。



RF レンズの「F4 L IS USM ズームレンズシリーズ」